丹沢山＆蛭ヶ岳山行報告

【山 行 日】　2017年 12月 2日（土）～3日（日）
【集　　合】　岩舟支所Ｐ　　AM 4：00
【費　　用】　マイカー1台　：　13, 300円
【メンバー】　CL：鈴木、　岩渕、関、藤原
12月2日（土）　晴れのち曇り　菩薩峠より三ノ塔・塔ノ岳・丹沢山を経由し、蛭ヶ岳山荘へ
岩舟支所 P4:00＝ヤビツ峠 6:05/6:20＝菩提峠 P6:30/6:50～二ノ塔 7:50～三ノ塔 8:20/8:30～新大日 10:10～塔ノ岳 11:00/11:50～丹沢山 13:10/13:30～蛭ヶ岳 15:15～蛭ヶ岳山荘 15:30

１２月に宿泊山行をと云うリクエストがあり、丹沢山から蛭ヶ岳に登る山行を計画した。
この時季は混雑が無いだろうと思っていたが、１１月から12月の週末は一番宿泊者が多いらしい。
圏央道から東名高速を走り、秦野中井 IC で降りてヤビツ峠を目指す。ヤビツ峠でトイレを済ませ、車で菩提峠に行き広い駐車場に車を止める。すでに5～6台駐車しており、我々も準備をしてストレッチを行い出発する。駐車場北側の林道ゲート脇から林道を進み、１０分くらいでヤビツ峠からの道と合わさりここに塔ノ岳への標識がある。左折して登山道に入り、尾根を登って最初のベンチで休憩し衣服調整する。樹林帯の尾根の登りが続くが、時折明るく開けた所から大山が大きく見える。

土止めの階段を登って行くと、やがてガレ場の登りとなり一頑張りで二ノ塔へ着く。山頂からの展望は良く、これから登る三ノ塔が目の前に姿を見せている。尾根をわずかに下り、登り返すと三ノ塔の山頂に出る。丹沢表尾根コースの中でも屈指の展望を誇り、大倉尾根の向こうに富士山が見える。
頂上は広く休憩舎やベンチがあり、眺望を楽しみながら一息入れる。ここからガレ場の急坂をクサリを頼りに下り、鞍部から80mほど登り返すと烏尾山荘が建つ烏尾山山頂に着く。山荘は閉まっていたがベンチとトイレがあり、休憩してトイレを借りる。ここまでは富士山が見えていて、陽差しがあり寒さを感じなかったが、この先からガスが掛かり眺望が得られなくなる。ここからは木の階段が多くなり、霜が付いた階段を慎重に降りて行く。眺望は無くなったが、霧氷が素晴らしく皆「綺麗～」と感動していた。登り返したところが行者岳で、狭い山頂だが役行者の石像が置かれている。短いクサリ場を下

った先の岩峰が行者岳西峯。行者岳西峯から岩場のクサリを下り、下り切った所のキレットを壊れかけた木橋で渡る。カイサク小屋跡を過ぎ、赤土の急な登りを登り切ると新大日茶屋がある。新大日からコースが大きく左にカーブして下り、あとはまっすぐ塔ノ岳に向かって尾根道が延びている。木ノ又小屋でコーヒーを飲んで休んでいる女性がいて、お嬢様方からおねだりされたが却下し塔ノ岳に向かう。樹氷に癒されながら尾根を登り、塔ノ岳への最後の急登に差し掛かる。

頑張って登り切ると塔ノ岳山頂に着いたが、あいにくのガスで眺望は得られない。山頂は大勢の登山者で賑わっており、我々は風の当たらない場所に移動してランチタイムとする。お嬢達がトイレに行っている間にキノコ蕎麦を作り、戻ってきたら食べ始める。キノコたっぷりの蕎麦は、とても美味しく体が温まる。I 渕さんから「スーさんこのお蕎麦すっごく美味しいよ」と珍しくお褒めの言葉をいただいた。昼食が済んだら山頂で記念写真を撮り、丹沢山へ向かう。尊仏山荘脇を通ってくっだって行き、鞍部から登り返したところが日高で霧氷のブナ林と笹原で気持ちよく歩ける。アップダウンを繰り返し、竜ガ馬場への登りに差し掛かる。竜ガ馬場は草地の中を歩く気持ちいい道だ。ここから緩やかに登り、最後は土止めの階段を登ると丹沢山山頂に着く。山頂には日本百名山「丹沢山」の看板があり、その前で記念写真を撮る。奥のベンチで休憩を取り、みやま山荘でトイレを借りる。少し戻り分岐を右に急坂を下りて行く。急な木段を下るが、霜が付いており慎重に降りて行く。不動ノ峯、棚沢ノ頭と大きくアップダウンを繰り返し、鬼ヶ岩に登り返すと「蛭ヶ岳0．9Km」の標識があり少し気持ちが楽になる。鬼ヶ岩をクサリで慎重に下り、いくつもの木段を登るとようやく蛭ヶ岳山荘に着く。

すぐ先の蛭ヶ岳山頂まで行き、ガスで何も見えないがとりあえず記念写真を撮り山荘へ向かう。

山荘に入ると管理人が待っており、泥だらけの靴の入れ方を指示され靴を脱ぐ。中に入るとストーブの前に座らされ、テレビ画面を使って小屋を利用するルールをレクチャーされた。その後寝床の大部屋に案内され、寝る場所を指示された。今日は混雑しており、１枚の布団を2名で使用するとの事。男女別にするので、我輩は知らない

オッサンと1枚の布団に寝ることとなる。下着を着替えたら食堂に行き、テーブルを借りて宴会が始まる。ビールやお酒、コーヒーなど、好きなものを飲みながら山の話で盛り上がる。そのまま夕食の時間となり、5時から1回目の夕食タイム。我々は1回目の番号なので、トレーを持って夕食の食材をいただいた。6種類のお惣菜がバイキングで並び、主菜のおでんと味噌汁をカウンターで受け取りいただく。2回目の夕食が済んだ後、テレビのモニターを使って小屋の管理人が撮った「丹沢の四季」の映写会が行われた。お嬢達は早々と布団に入ったが、我輩は一人で見せていただいた。ユーモアを交えた名解説に、皆さん楽しそうに見入っていた。8時消灯なので部屋に戻り、狭い布団の間にもぐり込み眠りについた。

12月3日（日） 快晴　蛭ヶ岳から秀麗な富士山を望み、富士山を見ながら往路を戻って下山し秦野市のスーパー銭湯『湯花楽』で汗を流し岩舟支所Ｐへ帰着する。

蛭ヶ岳山荘 6:20～蛭ヶ岳 6/20/6:30～丹沢山 8:05/8:20～塔ノ岳 9:30/9:45～新大日 10/10:～三ノ塔 11:20/11:30～菩提峠 P13:15＝スーパー銭湯『湯花楽』13:55/14:55＝岩舟支所 P18:40

朝食が5時から始まるので、4時30分に起きて準備する。5分前に朝食の列に並び、トレーを取って好きなお惣菜を載せる。味噌汁とお茶をいただき、空いているテーブルで朝食をいただく。切イカやコブの佃煮、マグロフレークなど好きなものをいただき部屋に戻る。I渕さんが「夜景が凄くキレイだった」と言うので、夜景を見に外に出る。なるほどと納得する素晴らしい夜景が広がり、東京から横浜の広大な夜景が広がり、手前の相模原市の夜景と一体化し素晴らしかった。富士山も笠雲を乗せてはっきりと見え、今日は富士山を見ながら楽しく歩けると嬉しくなる。出かける支度を整え、トイレに行くが並んでいる。宿泊客に対してトイレの数が少なく、朝は出かける時間帯が同じなので混雑する。トイレを済ませ靴を履き、外に出ると皆さん準備が出来ていた。山頂で富士山バックに記念写真を撮り、ストレッチを行ってから出発する。風が少し強いが、歩くのには問題ない。昨日はガスの中歩き周囲が何も見えなかったが、今日は朝から快晴ですべてが良く見える。木段の下りは霜が降りているので、滑らないように慎重に下る。

今日も霧氷が素晴らしく、写真を撮りながらルンルン気分で歩ける。鬼ヶ岩の登りをクサリで登り、鬼ヶ岩に登ると富士山の眺望がすばらしい。昨日登ってきたコースを戻るが、二ノ塔まで素晴らしい富士山を見ながら歩けるので疲れが癒される。

棚沢ノ頭ではブナの霧氷が素晴らしく、休憩を取るとお花摘みがしたいと。。。後ろからどんどん人が来るので中々出来ない。二人でお互いに見張りに立ち、何とか済ませたようだ。昨日は辛かったが今日はまだ体力があり、丹沢山まで余裕で戻れた。ベンチで休憩しミカンや菓子を食べ、ここ

でもトイレに寄る。昨日はガスっていたので丹沢山頂で記念写真を撮り、塔ノ岳へ向かって下って行く。昨日と同じだけアップダウンがあるが、登りが短い分今日の方が楽である。それに加えて素晴らしい富士山や、美しい霧氷を見ながら歩け疲れが癒される。木段の登りは辛く、後ろが少し遅れ気

味になる。ようやく塔ノ岳まで戻ると大勢の登山者で賑わっていた。休憩してグレープフルーツや菓子を食べるが、お嬢達がトイレからなかなか戻ってこない。昨日はガスのなかだったので、山頂標柱の前で記念写真を撮ってから下山する。ここからは小さなアップダウンがあるが、下り基調なので富士山を楽しみながら余裕で歩く。富士山は見るたびに笠雲が変化し、様々な表情を見せてくれる。烏尾山で休憩しＩ渕さんがトイレに並ぶが、一つしかないので中々順番が来ない。我々はベンチで休憩し菓子やお茶をいただくが、Ｉ 嬢はトイレの前で並びながら食べる。ここから最後の難関三ノ塔への下りと登りが待っている。急坂を鞍部まで下り、ここからの登りが結構手強い。急坂を登りこれで終わりかと思うとまだ先に登りが待っている。やっと尾根に登り上がり、緩やかに尾根を進むと三ノ塔に着く。ベンチで最後の休憩を取り、リンゴや菓子を食ベエネ

ルギーを補給する。ここから二ノ塔までは緩やかに尾根を下り、ほんの少し登り返すと山頂に着く。ここで富士山は見納めなので、しっかりまぶたに焼き付ける。富士山の笠雲は全て無くなり、すっきりした端正な富士山をカメラに収める。二ノ塔から一気に下り、林道を右に進むと菩提峠の駐車場に着いた。靴を履き替えザックを車に載せて、秦野市にあるスーパー銭湯『湯花楽』へ向かった。湯花楽に着き、時間が遅いのでまずは昼食を食べることにする。それぞれ好きなものをオーダーし、美味しくいただく。昼食後温泉に入り、ゆっくり汗を流して帰路に着く。秦野中井 IC から東名高速に入ると、いきなり事故渋滞でノロノロ運転。やっと事故現場を通り過ぎたが、またその先で事故があり渋滞が続いた。海老名 JCT からは順調に走ったが、岩舟支所には予定よりも大幅に遅れて帰着した。